

学校と地域について

1 前回の審議会の意見の概要

- 仮に統合ということならば、名前を残すであるとか、走水小学校の校舎を利用した学習であるとか、地域の思いや歴史に敬意を払って、配慮していくということが、重要になっていくと思う。

- 走水地域にある環境を受け入れるのは、本当に学校でなければいけないのかというところは疑問を感じる。走水の環境が良いから走水小学校で生かすべきだという、子どもに選択をさせていないような状況があるのではないかと危惧している。カリキュラムの編成権は学校にあるため、その学年の先生たちがこの子どもたちにはこういうことを学ばせたいと思ったとき、果たして走水小学校はそれが本当にフラットにできているのかどうかというところが気になる。

- どこの地域でも自分の住んでいる町は好きなため、何か変わるということに対する気持ちの抵抗というものはあると思う。それをあまり強く出してしまうと地域論的に思われてしまう。意見が公正公平というような意味でどうかと思ってしまう。走水、田浦ということだけではなく、全市的、全国的に見た問題で捉えていかないといけない。うちのところが一番良いのだ、だからどうしてもそれだけは残したいというのは公正公平ではない。

- 協議会では走水という地域自体をどうやって守っていくかということに対する、地域に対する思いというものが良い意味で、前に出ていたと思う。一方、今の複式学級のような状況が生まれている走水小学校を残すかどうかということと、走水地域をこれからどう守っていくかということに分けて議論した方が良いのか、うまく整理をしながら、両方にとって良い結論が出ていった方が良いのか、こういったことについては学校教育のことに限定せずに、多世代交流、生涯教育、地域活性化といった観点から、意見を集約しながら良い方向を探していくということが必要である。

- 大楠高校が廃校になった際、放置された跡地の治安の悪化が心配された。また、自治会の活動内容などの見直しも相当入ってくるため、学校がなくなるということは、その地域の中心という考え方があるため、相当な配慮が必要である。

2 学校と地域の考え方

(1) 横須賀市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針改定版（抜粋）

学校と地域の連携について

学校と地域の連携は非常に重要であり、避難所や地域行事など、学校が地域の拠点でもあることを配慮していきます。

(2) 横須賀市教育環境整備計画（抜粋）

統合によりいずれかの学校が廃校となる場合、学校の跡地の利活用については、地域の方々の意見を伺いながら、全市的なまちづくりの視点で検討を行います。

【横須賀市FM戦略プラン】

本市は、全国的な傾向と同様に、人口減少・少子高齢化が進展し、市税収入の減少や社会保障費の増加が見込まれていますが、その一方で、時代の推移とともに市民の生活スタイルも大きく変わり、行政に対するニーズも大きく変化しています。

こうした中、様々な行政サービスが提供される場であり、まちづくりにおいても重要な位置づけである公共施設については、これまで、人口増加期を中心に整備を進めてきましたが、現状を見れば、その当時に設けた施設の老朽化が進み、人口の減少も既に30年以上前から継続的に進んでいます。

これらの背景から、公共施設全般について、その在り方を見直していく必要があると捉え、令和元年度に、本市の長期的な施設の更新・再編の方向性や中期的に実施する具体的な取り組みについて位置付けた「横須賀市FM戦略プラン」を策定しました。

このプランでは、公共施設の「規模」を需要に応じた適正なものにしていくことを掲げているため、人口減少の進展が、「建物」の縮減に大きく影響しますが、その一方で、まちづくりの考え方も踏まえながら、今後も市民に利用され、必要とされる「機能」は、できる限り残していくことも掲げています。

こうしたことから、「建物」という点で言えば、縮減を基本的な方向性に進めていくものと考えていますが、既存施設にあった機能が市民にとって、今後も必要である場合には、他の公共施設の用途を見直して、同様の活動ができるようにするなど、代替手段も並行して検討しながら、進めているところです。

また、「再編」という表現には、一律に施設を廃止して数を減らすという意味だけではなく、例えば、こども園の新設、図書館の移転のように、新たなニーズに応じて必要となったものを、既存施設の整理も含めて設けていくという視点も含まれます。

このように、公共施設の再編の検討（FM戦略プランの推進）にあたっては、市民が取り組む活動に最大限配慮することはもちろん、こうした施設再編により生み出された財源も、市民が安心して暮らせるまちになるように取り組む事業の財源にもなるので、施設再編とまちづくり・定住促進は、両輪で進めていくものと考えています。

3 地域別協議会における主な意見等

(1) 田浦地域

No	内 容
1	通学区域の範囲の検討については、地域の実情を考慮する必要があり、非常にデリケートな問題だと思います。
2	田浦地区は広い集会場がなく人口が多い割に不便です。検討に当たっては、この状況をくみ取っていただきたいと思います。
3	通学区域の検討に当たっては、各地域の歴史など地域の実情を踏まえていただく必要があると思います。
4	協議会の内容を教育委員会でまとめてもらった資料を回覧していますが、計画に対する反応がなく、ただ回覧を回しているだけになっているのが現状です。町内会、自治会、連合町内会等も含め、本件についてどのように考えるかを投げかけることも必要だと感じます。
5	長浦小学校区のうち、吉倉町と安針台は逸見行政センター管内で、長浦は田浦行政センター管内という状況になっています。各管内の催し物の通達は各管内にしか行かないので、例えば田浦警察署関係の催し物の情報も安針台には行きません。このため、小学生にポスターを描くようお願いしても、その話が通っていないので対応できませんし、このような弊害があります。
6	田浦小学校を廃止するのであれば、跡地の活用として、現在、田浦地域にはないコミュニティセンターや集会スペースなどを新設していただきたいです。また、広域避難場所としての利用の継続についても望みます。
7	学校がなくなった場合の地域への対応について、まちづくりの観点を踏まえた検討をしていただきたいです。
8	田浦小学校は、地域の皆さまの土地の一部を提供してできたと聞いていますので、跡利用を検討する場合は、地域の子どもたちあるいは地域住民のコミュニティの場として活用することも検討していただきたいです。
9	学校がなくなることによる人口減少と田浦地域のアーティスト村といった、行政としての地域活性についてどのように考えているのかを聞きたいです。また、年配の方が増える一方で子どもが少なくなる中で、誰がどのように利用していくのかについての施策も聞かせていただきたいです。
10	現在、近くにある善隣園保育センターの子どもたちは、運動会等広いスペースを必要とする行事の際に田浦小学校を使用していると思います。そのため、その子どもたちが使える場所を整備することで、こうした行事はもちろん、善隣園保育センターのふれあいの場として利用すること等を検討できれば、若い世代の呼び込みにもつながるのではないかと思います。
11	田浦青少年自然の家が今年3月末で廃止と聞いていますので、地域の方のコミュニティの場についても考えていただければと思います。

12	地域活性化等を考える上で、子どもたちから高齢者まで皆が集まれる場が絶対必要だと思います。船越地域には田浦行政センターがありますが、田浦地域にはこうした施設がありませんので、検討に当たっては十分考慮していただきたいです。
13	買い物ができるとか、役所屋のようにさまざまな手続きができるような場所があれば便利ではないかと感じました。
14	学校が持つ役割の一つとして、地域の防災拠点があると思います。田浦小学校もこうした役割を持つ場所ではありますし、一方で土砂災害特別警戒区域に入っている現状もありますが、土砂災害だけでなく地震等他の災害を見越しても地域の防災拠点は必要ではないかと思います。
15	田浦小学校の体育館にはテントが8張しか張れませんので、1張4人だとすると32人しか入れません。そうなりますと、田浦地域の避難地の責任者を決めるように言われても、近隣の住民が多く体育館に入ったら何もできなくなります。こうした状況を考えると、今後のためにも、広域避難地の整備はお願いしたいです。

(2) 走水・馬堀地域

No	内 容
1	走水は、子どもを育てるにはよい環境です。走水小学校には、他の小学校にないものがあります。プールが無いために海で泳いだり、海の幸集会やサツマイモを育てて食べたり、ホテルの里の整備や稲作なども行っています。地域との関わりが減ってしまう不安もあります。
2	馬堀小学校は、地域づくり協議会があり、地域の方々が集まり、草刈りや見守りパトロールなどを行っています。馬堀は温かい方が多く、高齢の方も参加しています。
3	馬堀小学校区と走水小学校区に関して言えば、例えば走水海岸でのキャンプであったり、遠足の目的地となっている観音崎公園であったりと、通学区域は異なるものの、走水は身近な地域だと考えています。もし走水小学校と馬堀小学校が統合ということになれば、その学区の中に教育的資産及び地域教材があるという自慢が増えるという点で、本当に嬉しいことだと感じています。
4	2月には学校側で給食の献立を考える自校献立というものがありますが、ここで走水のおかめを使って地産地消することを通じ、学習の一環へと変えていくような学校です。
5	自衛隊官舎や防衛大学の土地の件については、もっと前から市でも把握していたと思いますが、協議会を始める前にそれが分かった時点で、市の方でどのようにすればその土地を市で購入したり、新しく人を迎えたりすることができるかの話をしてほしかったです。
6	国有地の問題に関しては、2棟の防衛大学の旧官舎、南谷戸に位置する3棟の自衛隊の官舎、その他1か所の合計3か所について、管轄とされる関東財務局と横須賀事務所に対しての署名活動をやってほしいとの意見が出ました。これらの面積は、狭い地域の中でかなりの割合を占める土地ですので、早めに民間に払い下げるよう市で働きかけることをしてもらい、新しく子育て世代に入ってもらえば良いのかなと思います。
7	馬堀小学校が、もし走水小学校を取り込んだとして、そこから5キロ6キロあるようなところにある観音崎一帯の教育環境をうまく活かすことはできません。走水の地域住民と長年にわたって築き上げてきた協力関係や教育環境、施設などを身近なところで、地域の協力を得ながら最大限活かせるのは、現在の走水小学校だけといえます。
8	仮に統合によって走水小学校を使用しなくなった場合、廃校舎をリニューアルして宿泊施設にする取り組みができないか。現在、走水小学校ではワカメの種付けとホテルの里など特徴のある活動をたくさん行っていますので、市だけでなく全国から臨海学校のような形で宿泊者を受け入れることで、自然体験プログラムなどを実施できればとても良いのではないかというご意見がありました。
9	最新版のハザードマップでは、走水小学校が震災時の避難所として指定されています。跡利用ということではありませんが、現時点でそのような運用になっていますので、震災時の資材の倉庫や乾パンなどを残していただきたいと思います。

10	学校施設としての建物については、震災時の地域の避難所としてそのまま残していただきたいと思います。
11	施設が残されたとしても、それを管理して活用していくことは難しく、小学校跡地が有効に活用された事例は多くないといえます。
12	避難所で実際に人が泊まる機会がありますので、その場合、もちろん体育館がいつまで使えるかというところもありますが、簡易ベッド等の物品が使える点検や施設装備の点検などの方法でノウハウを築いていくこともありではないか。
13	統合後に走水小学校を売却した場合の懸念ですが、現在、走水小学校を利用しているスポーツ少年団が複数あると思いますし、私が知る限りでは野球、空手、剣道があると思います。統合によって走水小学校が使えなくなれば他の場所に移るわけですが、さまざまなスポーツ少年団の間での場所取り調整が大変ですし、団体自体の存続にも影響する可能性があります。子どもの人数が少なくなっていく中で、子どもの活動場所としてのスポーツ少年団の存在はとても意義のある団体だと思いますので、こうした観点からも踏まえて検討していただければと思います。
14	もし走水小学校を避難所として残すとして、今後校舎が老朽化したことで取り壊すこととなった場合、走水地域の住民はどこに避難したらよろしいですか。